

## 平成 28 年度日本生理学会第 1 回理事会議事録

日 時： 平成 28 年 3 月 21 日（月） 13:00～16:30

場 所： 札幌コンベンションセンター 204

### [出席者]

理事長 栗原 敏（議長）

理 事 赤羽悟美、明間立雄、石川義弘、老木成稔、加藤総夫、椛 秀人、亀山正樹、  
久野みゆき、久場博司、久保義弘、鯉淵典之、小西真人、白尾智明、多久和典子、  
竹森 重、當瀬規嗣、徳田雅明、富永真琴、鍋倉淳一、舩橋利也、舩橋 誠、  
前田正信、蒔田直昌、松井秀樹、丸中良典、三木健寿、南沢 享、持田澄子、  
柚崎通介（計 30 名）

監 事 川上順子、高松 研

陪席者 井手正和、上田陽一、浦野哲盟、岡村康司、尾仲達史、小野克重、柏柳 誠、  
狩野方伸、倉智嘉久、小林 誠、佐久間康夫、渋谷まさと、関野祐子、  
高井 章、田中潤也、中島 昭、林由紀子、平野勝也、福田敦夫、藤山理恵、  
古谷和春、御子柴克彦、八尾 寛、和田 真、渡辺修一、渡辺 賢

### [欠席者]

理 事 井上隆司、井本敬二、入來篤史、小川園子、尾野恭一、大森治紀、岡野栄之、  
篠田 陽、澁木克栄、藤井 聡（計 10 名）

定数 40 名に対し、30 名の理事が出席し、定款により、本理事会は適法に成立した。

## 報告及び協議事項

### 1. 理事長挨拶

定刻となり開催する旨宣言された。

札幌を会場として学術大会が開催されるのは第 81 回大会以来 12 年振りとなり、大会長就任を快諾し大会開催に尽力した高井章大会長と當瀬規嗣大会長に謝辞が述べられた。

### 2. 庶務報告（栗原理事長）

現在特別会員 12 名、名誉会員 6 名が在籍していることが報告された。

平成 28 年 1 月現在で会員総数が 3,026 名となり、3,000 名を超えたことが報告された。

新島旭特別会員、入來正躬特別会員の弔事が報告され、哀悼の意が述べられた。

### 3. 財務報告（石川副理事長）

以下 5 点について報告された。

- 1) 平成 27 年度決算額の経常収益が予算額を上回るのは、受取会費の増加と平成 27 年度分科研費の収入に因る。
- 2) FAOPS2015 抄録代を負担しなくてよくなったこと、大会抄録集作成費を第 92 回日本生理学会大会側で全額負担してくれたことに因り、例年より経常費用が下回った。
- 3) 一般正味財産が平成 26 年度に比して増加しているが、今後は“The Journal of Physiological Sciences”（以後、JPS）のオープンアクセス化で支出が予定されていること、平成 29 年度で科研費交付が終了することを考慮し、引き続き財務立て直しに努める必要がある。
- 4) 監事は、会計監査で予算が適正に執行されていることを確認した。

5) 平成 28 年度予算 (案) には、科研費の交付が確定していないため、計上していない。

#### 4. 編集・広報委員会報告 (多久和委員長)

以下 3 点について報告および審議がなされた。

- 1) 平成 28 年 3 月 22 日に上田陽一会員が委員長に就任する。
- 2) 3 月 21 日開催の委員会で、日本生理学雑誌 (以後、日生誌) の Web 化について審議した。
  1. 年 6 回の発行回数を年 4 回 (季刊) とする、2. 季刊発行とし、冊子体を作らず、ニュースレターとする、3. 完全 Web 化を図り紙媒体で発行しない、の 3 案を提示したうえで理事会に諮り、季刊発行とすることが承認された。発行時期や形式、掲載内容は委員会で継続審議とする。
- 3) 出版用紙配給割当規定施行後も紙をかき集めて発行し、これまで休刊は昭和 19 年の 1 度に止めてきた歴史も踏まえ、Web 化は進めるが、紙媒体の発行は継続することとなった。

#### 5. JPS 編集委員会報告 (石川委員長)

以下 3 点について報告された。

- 1) 投稿からオンライン出版までにかかる時間が、1.0 ヶ月、冊子体出版まで 1.9 ヶ月であり、最短記録となった。
- 2) Springer Link からのダウンロード数が 2,284 件となった。
- 3) 正式な報告は 4 か月後となるが、平成 28 年 2 月現在、JPS の Impact Factor は、会員の方々の協力により 1.938 となった。

#### 6. 会員委員会報告 (亀山委員長)

報告なし

#### 7. 選挙管理委員会報告 (明間委員長)

以下 5 点について報告された。

- 1) 日本生理学会理事選挙規則に従い、下記の要領で地区別理事選挙を行った。

|      |  |
|------|--|
| 改選数  | 北海道 1、東北 1、関東 3、東京 3、中部 2、近畿 2、中国四国 2、九州 1 (合計 15) |
| 公示期間 | 平成 27 年 11 月 10 日 (火) - 12 月 17 日 (木)              |
| 投票期間 | 平成 27 年 12 月 2 日 (水) 正午 - 12 月 17 日 (木) 正午         |
| 投票方法 | インターネットによるオンライン投票                                  |
| 開票報告 | 平成 27 年 12 月 18 日 (金)                              |
- 2) 栗原敏理事長が各地区の当選者に理事就任の意志を確認した。辞退があれば次点者に就任の意志を確認した。
- 3) 平成 27 年度第 2 回理事会での承認に基づき、現理事 1 名の辞任に伴って次点者が繰上げ当選となった。当該者の理事任期は、現理事の残任期間とする。
- 4) 特別幹理事の選出に関する内規に従い、下記の要領で女性幹補欠選挙を行った。

|      |  |
|------|--|
| 選挙人  | 現理事                                      |
| 改選数  | 女性幹 1                                    |
| 投票期間 | 平成 28 年 2 月 23 日 (火) 正午 - 3 月 1 日 (火) 正午 |
| 投票方法 | インターネットによるオンライン投票                        |
| 開票報告 | 平成 28 年 3 月 1 日 (火)                      |
- 5) 栗原敏理事長が女性幹理事の当選者に理事就任の意志を確認した。

#### 8. 教育委員会報告 (鯉淵委員長)

以下 4 点について報告された。

- 1) 『MCQ 問題集』『解剖生理学クリアブック』が発行された。『解剖生理学クリアブック』は売行き好調のため、増刷が決定した。
- 2) 第 93 回日本生理学会大会（以後、札幌大会）では 3 月 22 日と同 23 日に教育プログラムを開催する。
- 3) 札幌大会より、初めての試みとして Educator's Café を実施する。
- 4) 会員に配布した教育プログラムポスターに記載した開催年に誤植がある。3 月 4 日付で修正とお詫びの一斉メールを会員へ配信している。

#### 9. 生理学エデュケーター認定制度委員会（中島委員長）

以下 3 点について報告された。

- 1) 平成 27 年度エデュケーター認定者 57 名に、平成 28 年 1 月 8 日付で認定証を発送した。
- 2) 生理学エデュケーター認定制度を維持・発展させるため方策として、札幌大会で Educator's Café を開設する。また今後、特典メール配信や都道府県別認定者数の公開を検討している。
- 3) 生理学エデュケーター認定制度規約を日本生理学会（以後、PSJ）ホームページに公開するにあたり、規約の文言を確認し、加筆・修正点があれば 4 月中旬までに中島委員長へ連絡することとなった。

#### 10. 学術・研究委員会報告（加藤委員長）

以下 4 点について報告された。

- 1) 平成 30 年度公募より新たな審査希望分野の分類表及び審査方式の導入を中心とした抜本的な見直し（科研費審査システム改革 2018）実施について、生理学分野にも関わることと認識し、メール会議を行って委員間で情報を共有した。文部科学省が 4 月 26 日（火）に実施する説明会について、3 月 10 日付で会員にメールで案内している。
- 2) 学術会議マスタープラン 2017 へ、機能医科学分科会を中心に据えて、応募する。公募期間は 2 月から 3 月であり、学術会議マスタープラン 2014 時の応募案件を発展させる。
- 3) 科研費制度の大幅な改変内容が公表されておらず、また応募前であるマスタープランを議題にできないため、札幌大会ではシンポジウムを開催しない。
- 4) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構（以後、AMED）へ、PSJ の意見を伝える方策を検討する。

#### 11. 他学会連携委員会報告（赤羽委員長）

報告なし

#### 12. 研究倫理委員会報告（柁委員長）

以下 2 点について報告および審議がなされた。

- 1) 動物の愛護及び管理に関する法律（動物愛護管理法）に対応すべく、1. 機関（自主）管理の徹底、2. 動物実験申請時に代替法の検討の記載を明記、3. 鎮痛効果が十分にある、動物種に即した麻酔を使用、の計 3 点を PSJ のホームページに掲載することを諮ったところ、PSJ の意図とかけ離れた理解をされることがないように、文言と案内方法を委員で引き続き検討することとなった。
- 2) 札幌大会で開催される教育プログラムの演者に信州大学医学部 CITI Japan プロジェクトの野内玲氏を推薦した。

#### 13. 利益相反委員会報告（柁委員長）

AMED から研究資金に関する利益相反（COI）申告について、日本医学会利益相反委員会より以下 4 点の見解が示されたと報告された。

- 1) AMED と特設契約の場合は公的研究費と考え、申告の必要はない。
- 2) 企業等の営利を目的とする団体からの再委託の場合は申告が必要。
- 3) 演題登録に当該企業の社長等も著者に含まれていたことに関して、COI 開示は研究機関に所属する研究者に求められているが、社長は COI 自己開示の必要はない。当該研究は企業との連携であることを示すために、会社名・職名を記載することが重要。
- 4) 将来、民間資金の活用という考えから、営利企業より提供された資金を基金（公開）として配分される場合は、当該企業名を記載する必要がある。

#### 14. 国際交流委員会報告（久保委員長）

以下 5 点について報告および承認がなされた。

- 1) 札幌大会で開催する国際交流関連シンポジウムは日中合同シンポジウム（CAPS-PSJ シンポジウム）、日韓合同シンポジウム（KPS-PSJ シンポジウム）、日豪合同シンポジウム（AuPS-PSJ シンポジウム）の 3 件である。  
CAPS-PSJ シンポジウムと KPS-PSJ シンポジウムの演者各 1 名に支払う旅費は KOJACH 予算より支出する。AuPS-PSJ シンポジウムの演者 2 名に、PSJ より支払う。  
旅費は札幌での滞在費のみとし、1 名につき上限 5 万円とする。
- 2) 平成 28 年 9 月 25 日から 28 日にかけて北京で開催される CAPS 主催の国際生理学会 2016 では、PSJ から提案したシンポジウム 2 題が採択された。  
“renal, reproduction, GI, endocrine, etc” 分野の Plenary Lecturer の候補者推薦を求められたため理事長・副理事長で協議し、丸中良典理事を推薦したところ採用された。
- 3) AuPS2016 で AuPS-PSJ シンポジウムを開催し、PSJ より 2 名の講演者を招待する予定であると連絡があった。
- 4) 平成 29 年 8 月 1 日から 5 日にかけてリオデジャネイロで開催される IUPS2017 の Plenary および Keynote Lecturers の提案を会員に呼びかけた。日本からは御子柴克彦会員と宮下保司会員が Keynote Lecturer に選出された。1. 財務上懸念がある IUPS2017 の財務上のパートナーと認識され、赤字補てんを課される可能性を避ける、2. PSJ の旅費規程ではビジネスクラス分の差額を出すことはできない、との 2 点の観点から、PSJ は旅費補助を行わない。
- 5) FAOPS2019 までに開催される第 94 回日本生理学会大会（以後、浜松大会）、第 95 回日本生理学会大会（以後、高松大会）では CAPS、KPS 各 1 名の他に、国際交流強化を目的として、アジアから各年 2 名を PSJ 旅費負担で招聘することを諮り、承認された。

#### 15. 集会委員会報告（富永委員長）

以下 2 点について報告された。

- 1) 高松大会大会長（2018 年）候補者に、開催計画について確認した。
- 2) 札幌大会および浜松大会の準備状況の説明を受け、計画内容について議論した。

#### 16. 将来計画委員会報告（白尾委員長）

報告なし

#### 17. 男女共同参画推進委員会報告（関野委員長）

報告なし

#### 18. 賞選考委員会報告（松井委員長）

以下 4 点について報告および承認がなされた。

- 1) 粟生修司委員より交代依頼があり、受諾した。同じ九州地区委員として富澤一仁会員が平成 28 年度より就任する。

2) 平成 27 年度日本生理学会奨励賞には 9 名応募があり、そのうち下記の 4 名を推薦した(敬称略)。例年 2 名を推薦しているが、選考過程で 1 位と 3 位が 2 名同得票数となり、審議の結果 4 名を推薦することとした。

魏 范研 (熊本大学大学院生命科学研究部分子生理学分野)  
村山正宜 (国立研究開発法人理化学研究所脳科学総合研究センター)  
岩崎有作 (自治医科大学医学部生理学講座統合生理学部門)  
小野大輔 (北海道大学大学院医学研究科)

3) 山田科学振興財団の 2016 年度研究助成に次の 2 名を推薦した。(敬称略)

水関健司 (大阪市立大学医学部大学院医学研究科)  
高鶴裕介 (群馬大学大学院医学系研究科応用生理学分野)

4) 平成 28 年度より、日本生理学会奨励賞の応募資格のうち、年齢上限を現行の「満 39 歳以下」から「満 42 歳以下」に引き上げることを諮り、承認された。

### 19. 入澤記念若手賞選考委員会報告(尾野委員長代理:岡村委員)

8 名の応募者を研究内容及び業績に基づいて部門で分け、審議した結果、次の 6 名を選出したことが報告された。(敬称略)

イオンチャネル・トランスポーター部門(2名)

黒川竜紀 (京都大学大学院工学研究科)  
加塩麻紀子 (京都府立医科大学細胞生理学)

心臓・循環部門(4名)

大山廣太郎 (東京慈恵会医科大学細胞生理学講座)  
戦 冬雲 (国立研究開発法人国立循環器病研究センター・心臓生理機能部)  
谷田 守 (金沢医科大学生理学Ⅱ講座)  
加藤優子 (横浜市立大学大学院医学研究科/東京医科歯科大学保健衛生学研究科)

### 20. 入澤賞運営委員会報告(持田委員長)

平成 27 年度入澤宏・彩若手研究奨励賞(6名)、入澤彩記念女性生理学者奨励賞(入澤彩賞)、入澤宏・彩記念 JPS 優秀論文賞(1報)、JPS 心臓循環論文賞(1報)の受賞者が報告された。副賞は 4 月下旬から 5 月初旬にかけて振込予定とする。

入澤宏・彩記念 JPS 優秀論文賞(1報)

“Early-life stress increases the motility of microglia in adulthood”

Takatsuru, Yusuke; Nabekura, Junichi; Ishikawa, Tatsuya; Kohsaka, Shin-ichi;  
Koibuchi, Noriyuki

入澤宏・彩記念 JPS 心臓・循環論文賞(1報)

“Differential contribution of aortic and carotid sinus baroreflexes to control of heart rate and renal sympathetic nerve activity”

Ishii, Kei; Idesako Mitsuhiro; Matsukawa, Kanji

### 21. 生理学女性研究者の会運営委員会(藤山委員長)

10 名の応募者を選考基準に従って選考し、下記 1 名を選出したことが報告された。選考委員は男性 3 名、女性 2 名の計 5 名で構成する。(敬称略)

稲場直子 (北海道大学医学研究科神経生理学分野)

### 22. 若手の会運営委員会報告(和田委員長)

以下 3 点について報告された。

1) 札幌大会で若手ランチョンセミナーを開催する。アカデミックポスト以外の職に就いている演者 4 名を迎え、博士保持者の多様なキャリアパスの紹介と議論を行う。

- 2) PSJ より平成 28 年度活動予算が承認されたサマースクールのテーマについてメール会議で議論している。
- 3) 本年開催に向けて、サイエンスカフェのテーマ・演者選定を進めている。

### 23. 義援金配分委員会報告（八尾委員長）

以下 5 点について報告および審議がなされた。

- 1) 第 92 回日本生理学会大会に東日本大震災被災三県から参加し、申請があった PSJ 会員 14 名へ参加登録費の返還を実施した。
- 2) 第 46 回東北生理談話会に被災三県から参加し、申請があった PSJ 会員 13 名へ、参加費の返還を実施した。また、学部学生を対象に PSJ 平成 27 年度年会費の半額補助を実施した。
- 3) 平成 27 年度東北地方会賞選考委員会の選考により、東北日本生理科学奨励賞 3 名、東北日本生理科学有志賞 1 名が選出され、表彰した。
- 4) 今後も地方会賞への支援を継続するが、大会参加登録費の返還、地方会参加登録費の返還は行わない。
- 5) 義援金を東日本大震災被災三県の会員だけでなく、PSJ の奨励賞副賞等の基金に組み込むことを提案したが、東北義援金として使用すべきとの意見があり、継続審議とする。

### 24. フィジオーム・システムバイオロジー推進特別委員会報告（倉智委員長）

報告なし

### 25. 日本学術会議報告（河西会員一代理：加藤副理事長）

以下 4 点について報告された。

- 1) 札幌大会で、日本学術会議後援シンポジウム「技術革新が拓く機能医科学の新たな展開」（座長：高木都会員、平井宏和会員）を開催する。
- 2) マスタープラン 2017 に応募する準備を進めている。
- 3) 日本学術会議では、生命科学におけるポストク、プロジェクト研究の任期付き教員のキャリアパス問題を取り上げるフォーラムを平成 28 年 9 月に開催予定とする。
- 4) 日本学術会議では動物愛護法の見直しを視野に入れ、動物実験に関するガイドラインの改定に取り組んでいる。

### 26. 日本医学会評議員会報告（赤羽理事）

報告なし

### 27. 日本医学会用語委員会報告（佐久間会員）

平成 27 年度第 2 回理事会後に各方面に確認したところ、PSJ 独自の用語集（冊子体）を作成することは費用の面からも現実的ではないことがわかった。また分野間の用語統一やかかる労力について課題が残ることから、教育委員会とともに継続して検討していくことが報告された。

### 28. 国際生理科学連合（IUPS）報告（御子柴会員）

平成 27 年 7 月 31 日から 3 日間ブラジルで開催された集会で、経済事情により運用予算 3 割削減で開催するために、Plenary および Keynote Lecturer とともに航空運賃をエコノミークラス分のみ負担することが提議されたことに対し強く抗議したが、意見の採用には至らなかった。本年 3 月 8 日に開催された Skype meeting で現状確認したところ、演題登録数は目標に届いておらず、登録締切を延期するであろうことが報告された。

### 29. アジア・オセアニア生理学会連合（FAOPS）報告（久保副理事長）

以下 5 点について報告された。

- 1) 平成 27 年 11 月 23 日から 25 日にかけて開催された FAOPS2015 (バンコク) への参加総数は 594 名であり、うち 130 名が日本から出席した。
- 2) 同年 11 月 23 日に開催された総会に、鍋倉淳一 FAOPS2019 組織委員会委員長、富永真琴第 96 回日本生理学会大会大会長、加藤総夫副理事長、鯉淵典之副理事長、久保義弘副理事長が出席し、鍋倉淳一 FAOPS2019 組織委員会委員長が FAOPS2019 の開催準備状況を説明した。
- 3) FAOPS2019 開催国である日本から、2<sup>nd</sup> Vice President に久保義弘副理事長が選出された。
- 4) 同年 11 月 24 日の FAOPS 理事会は新体制で開催された。活動の充実を図ることを目的として、Education、Research、Finance、International liaison、Organization の 5 つの subcommittees を設置することが決定し、久保義弘副理事長が Research subcommittee の Chair に就任した。
- 5) Finance subcommittee では、供出金額の根拠となっている会員数について、現状に合うように見直し等を行う。

### 30. FAOPS2019 組織委員会報告 (鍋倉委員長)

以下 8 点について報告および提案がなされた。

- 1) 平成 27 年 10 月 12 日に委員会を開催し、FAOPS2019 の規約や FAOPS2015 内 Japan Night プログラムおよび FAOPS2019 ブースについて検討した。
- 2) FAOPS2019 を、広くアジア・オセアニアからの FAOPS2015 参加者に周知することを目的として、平成 27 年 11 月 23 日に Japan Night を開催し、177 名が参加した (うち 101 名は外国人)。
- 3) PSJ の支援により、PSJ 会員 7 名を FAOPS アンバサダーとして FAOPS2015 に派遣した。アンバサダーは Japan Night に参加し、外国人研究者を対象として FAOPS2019 の広報に努めた。
- 4) 日本学術会議に共同主催国際会議申請書を提出したが、国内学会が開催する学術大会と共同開催であることが、日本学術会議の「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」にそぐわないため、不採択となった。
- 5) FAOPS2019 大会定款の文言を変更したことを報告のうえ諮ったところ、承認された。
- 6) FAOPS2019 組織委員会規程を作成した。意見があれば鍋倉淳一委員長に連絡する。
- 7) 多久和編集・広報委員会委員長より、若い会員に向けて FAOPS についてホームページに掲載することが提案された。
- 8) FAOPS2019 を招致した際の経緯から、日本体力医学会の協力を期待できる。

### 31. 生物科学学会連合報告 (小西副理事長)

3 月 5 日定例会議が開催され、1. 次期代表選挙の実施、2. ポストドクター問題の継続調査、3. 加盟学会間での合同の推進後押しを検討、の 3 点が報告および審議された。

### 32. 日本脳科学関連学会連合報告 (加藤副理事長)

以下 2 点について報告された。

- 1) 脳科学関連学会連合は AMED が担当する 1. 臨床と基礎研究の連携強化による精神・神経疾患の克服、2. BMI 技術と生物学の融合による治療効果を促進するための技術開発、の 2 プロジェクトの周知と、当該研究分野の研究動向と将来を論じることを目的とした検討会を開催した。
- 2) マスタープラン 2017 に、マスタープラン 2014 で採用されたテーマの継続課題として「A.縦断的臨床観察データ・バイオサンプル取得のネットワーク整備」、「B.シームレス解析技術開発拠点作成」、「C.トランスレータブルバイオマーカー開発拠点作成」の 3 つの柱の中から、「イメージング」を中心課題に据え、中核拠点としての「多次元イメージングセンター」の構

案を目標として提案する。

### 33. 第 93 回（平成 28 年）日本生理学会大会準備状況報告（當瀬大会長）

以下 5 点について報告された。

- 1) 事前参加登録数は 1,221 名、一般演題登録数は 656 件である。3 月 21 日時点で 7 件演題登録の取り下げが判明している。
- 2) 国際シンポジウムとして CAPS-PSJ シンポジウム、KPS-PSJ シンポジウム、AuPS-PSJ シンポジウムの他、大会企画としてフランス神経科学学会合同シンポジウムを開催する。
- 3) 全体懇親会を本大会でも 3 月 23 日に開催する。245 名が参加予定である。
- 4) Educator's Café をポスター会場の休憩スペースに開設する。
- 5) 本大会でも専門学校生を当日参加に限り「学部生扱い」で受け入れる。

### 34. 第 94 回（平成 29 年）日本生理学会大会準備状況報告（福田大会長）

以下 4 点について報告された。

- 1) 開催趣意書・各種協賛募集要項を 420 社に送付しているが、協賛を更に増やすために協力を呼びかけた。
- 2) Plenary Lecturer 3 名を含め、海外から 10 名以上演者が参加する予定である。
- 3) 田原淳記念レクチャーを丸中良典理事に、萩原生長記念レクチャーを井本敬二理事にお願いする。
- 4) 5 月 13 日に拡大プログラム委員会を開催する。プログラム委員の他、集会委員会委員長、教育委員会委員長、他学会連携委員会委員長にも出席してもらう予定である。

### 35. 第 95 回（平成 30 年）日本生理学会大会準備状況報告（徳田大会長）

中国・四国地方会の協力を得て、次のとおり開催する。

日程： 平成 30 年 3 月 28 日（水）－3 月 30 日（金）  
会場： サンポート高松、サンポート高松シンボルタワー等  
理事会： 平成 30 年 3 月 27 日（火）

全体懇親会の開催については、現時点では未定である。

### 36. その他

次期運営体制への継続課題として、1. オープンアクセス化の推進、2. 国際交流の活発化、3. 日本生理学雑誌の Web 化、4. エデュケーター認定制度の継続、5. 合同大会開催等他学会との連携、6. 医学用語集作成、7. 業務委託費や管理費等の見直し、の計 7 点が栗原敏理事長より伝えられた。

本会より、FAOPS の和名をアジア・オセアニア生理学会連合に統一する。

### 議 題

1. 平成 27 年度第 2 回議事録について

修正なく、承認された。

2. 新体制について

理事は以下のとおり承認された。新任理事は、平成 27 年 12 月に実施された地区別理事選挙により選出された。（敬称略）

重任：赤羽悟美、石川義弘、久保義弘、鯉淵典之、船橋 誠、藤井 聡、船橋利也、  
澁木克栄、柚崎通介、南沢 享、老木成稔、井本敬二、久場博司、前田正信、  
徳田雅明、井上隆司、蒔田直昌、篠田 陽、小川園子、富永真琴、鍋倉淳一

新任：渡辺 賢、北澤 茂、宮田麻理子、柏柳 誠、八尾 寛、尾仲達史、黒澤美枝子、



渡辺修一、狩野方伸、渋谷まさと、林由起子、中島 昭、福田敦夫、伊佐 正、  
 岡村康司、小林 誠、田中潤也、小野克重  
 理事長は平成 27 年度定時総会で承認された丸中良典理事が就任することを確認した。  
 副理事長については、以下の 6 名の就任および担当について諮ったところ、承認された。(敬  
 称略)

|          |       |
|----------|-------|
| 財務担当     | 石川 義弘 |
| 情報担当     | 上田 陽一 |
| 学術・研究担当  | 赤羽 悟美 |
| 教育担当     | 鯉淵 典之 |
| 国際化・集会担当 | 久保 義弘 |
| 庶務担当     | 渡辺 賢  |

監事は以下のとおり承認された。(敬称略)

加藤 総夫  
 小西 真人  
 松井 秀樹

運営組織は以下のとおり承認された。(敬称略)

|                                 |        |
|---------------------------------|--------|
| 編集広報委員会委員長                      | 上田 陽一  |
| JPS 編集委員会委員長                    | 石川 義弘  |
| 会員委員会委員長                        | 小野 克重  |
| 選挙管理委員会委員長                      | 林 由紀子  |
| 教育委員会委員長                        | 鯉淵 典之  |
| 生理学エデュケーター認定制度委員会委員長            | 中島 昭   |
| 学術研究委員会委員長                      | 赤羽 悟美  |
| 他学会連携委員会委員長                     | 黒澤 美枝子 |
| 研究倫理委員会委員長                      | 北澤 茂   |
| 利益相反検討委員会委員長                    | 小川 園子  |
| 国際交流委員会委員長                      | 久保 義弘  |
| FAOPS2019 組織委員会委員長              | 鍋倉 淳一  |
| 集会委員会委員長                        | 富永 真琴  |
| 将来計画委員会委員長                      | 多久和 典子 |
| 義援金配分委員会                        | 八尾 寛   |
| 男女共同参画推進委員会委員長                  | 齋藤 康彦  |
| 賞選考委員会委員長                       | 松井 秀樹  |
| 入澤記念若手賞選考委員会委員長                 | 當瀬 規嗣  |
| 入澤賞運営委員会委員長                     | 石川 義弘  |
| 生理学女性研究者の会運営委員会委員長              | 藤山 理恵  |
| 若手の会運営委員会委員長                    | 井手 正和  |
| フィジオーム・システムバイオロジー<br>推進特別委員会委員長 | 倉智 嘉久  |
| 日本医学会 評議員                       | 丸中 良典  |
| 日本医学会 連絡委員                      | 赤羽 悟美  |
| 日本医学会 用語委員                      | 佐久間 康夫 |
| 日本医学会 用語代委員                     | 柚崎 通介  |
| 生物科学学会連合 連絡委員                   | 渋谷 まさと |
| 生物科学学会連合 教科書問題委員                | 渋谷 まさと |
| 生物科学学会連合 ポスドク問題委員               | 鯉淵 典之、 |

日本脳科学関連学会連合  
運営委員・評議員

日本学術会議連携委員

篠田 陽  
伊佐 正(評・運)、  
加藤 総夫(評)、  
丸中 良典(評)  
河西 春郎

3. 平成 27 年度会計報告（最終）

石川義弘財務担当副理事長より報告があり、承認されたため、平成 28 年度定時社員総会に諮ることとする。

4. 平成 28 年度予算

石川義弘財務担当副理事長より、前年度に比して増減がある科目の説明があり、承認された。

5. 会計監査を依頼する税理士事務所について

PSJ 担当税理士は交代しないことを確認し、承認された。

6. 評議員の選考

57 名の候補者が承認されたため、平成 28 年度定時社員総会に諮ることとする。

7. その他

特になし